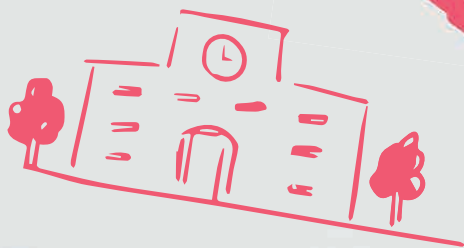
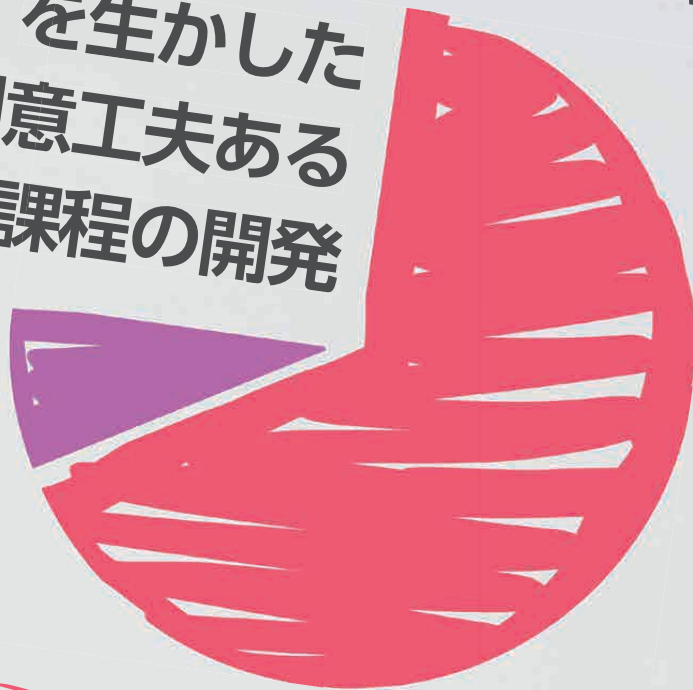


40分授業 午前5時間制

を生かした
創意工夫ある
教育課程の開発

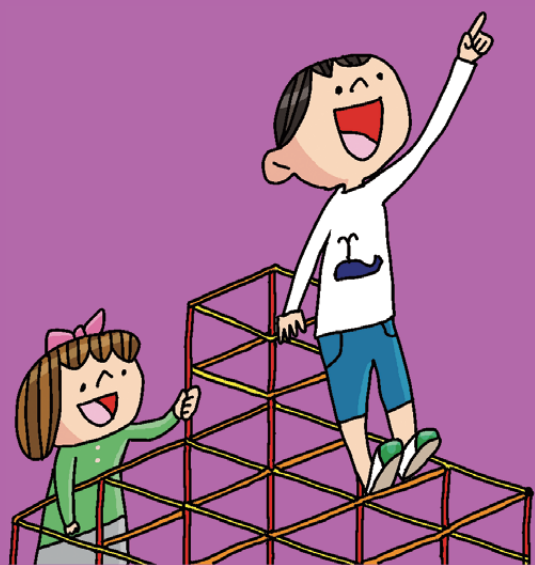


令和元年度～令和5年度
文部科学省 研究開発学校

目黒区教育委員会

目次

はじめに	02
「生み出した時間」で何を していますか？	06
「40分授業」で大丈夫ですか？	14
なぜ「午前5時間制」なの ですか？	18
まとめ	20
導入準備	22
40分授業のポイント	24
「40分授業午前5時間制」につ いてさらに質問です！	30
研究開発学校の各学校の研究	32



あいさつ

目黒区教育委員会では、「21世紀をたくましく生きる人間性豊かなめぐる子ども」を目指し、創意工夫を生かした学校づくりを推進しています。「小学校40分授業午前5時間制」はその実施策の一つとして導入しており、平成14年度に導入した中目黒小学校をはじめとして、現在は区立小学校22校中17校が「40分授業午前5時間制」を生かした魅力ある学校経営の実現を図っています。

この22年間という歴史の中で7年間にわたり、文部科学省から「カリキュラム・マネジメントに関する研究」（平成29・30年度）及び「研究開発学校」（令和元～5年度）の2つの研究指定を受け、「時間」という学校経営資源の効果的な活用に取り組んでまいりました。この間の研究の総括として教育関係者の皆様に最もお伝えしたいことは、「研究開発学校」の教育課程の特例として学校教育法施行規則第51条の規定によらず1単位時間を40分（40分×1,015コマ）としたことにより、児童の学びや生活の質の向上に資する創意工夫ある教育課程の編成をさらに一段進めることが可能となったということです。その理由や仕組み、取組内容等については、余すところなく本研究冊子に記載してありますので、ぜひご覧ください。

本区では、本研究開発が次期学習指導要領の検討において良き材料となることを願いつつ、令和8年度を目途に「小学校40分授業午前5時間制」を全校で実施してまいります。

結びに、研究を進めるに当たり、文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程企画室長 石田有記様、甲南女子大学人間科学部総合子ども学科教授 村川雅弘先生、元聖徳大学大学院教職研究科教授 西村佐二先生をはじめ、様々なお立場から専門的かつ実践的なご指導を賜りました講師の方々、並びにご支援いただきました保護者、地域の皆様に心から感謝申し上げます。

令和5年11月

目黒区教育委員会教育長
関根 義孝

こんな困り感はありませんか？

管理職の先生

創意工夫ある教育活動を実現したい！

児童の実態に応じた創意工夫ある教育活動が実現できる学校をつくりたいと考えています。けれども、新しい取組を実施すると学校行事や授業時数以外の時間が増えてしまいます。授業時数の適正化も求められています。

教員の働き方改革を進めたい！

児童下校後の時間が足りません。会議の精選、時間短縮に取り組んでいますが、教員の働き方改革を進めることに難しさを感じています。

教員の授業力向上を図りたい！

教員が校内OJTや校内研究を通して、授業力を高めたり、日常的に教材研究に取り組んだりする時間を十分確保することが授業力向上につながると考えますが、勤務時間内に時間を確保することに難しさを感じています。

学級担任や専科教員の先生

教材研究・教材準備の時間がもっと欲しい！

勤務時間内に教材研究をしたり、教材を作成したりしたいです。自分の仕事を自分のペースで取り組める時間が少ないです。

児童の学習状況に合った活動を授業に取り入れたい！

児童の学習状況に合わせて発展的な学習や補充的な学習を取り入れたいと考えていますが、時間を確保することが難しいです。

教員同士で連携をさらに図りたい！

学年会で児童のことを情報共有したり、よりよい指導方法について検討し共通理解する等、連携を図りたいと考えていますが、放課後に打ち合わせの時間を確保することが難しいです。



限られた時間の中で

- ⇒ 児童の資質・能力の向上のために、学校の特色ある活動を充実させたい！
- ⇒ 先生たちの放課後の時間にゆとりをもたせ、心身の健康、誇りとやりがいをもって勤務できる環境を確保したい。

40分授業午前5時間制 で解決ができます。



はじめに

目黒区の研究開発学校で取り組んでいる「40分授業」って？

目黒区では、平成14年度に中目黒小学校で「40分授業午前5時間制」を導入し、現在（令和5年度時点）、区立小学校22校中17校において「40分授業午前5時間制」を実施しています。令和元年度から文部科学省の研究開発学校の指定を受けており、1単位時間を40分間として教育課程を編成しています。

「40分授業」授業時数の特例について

1単位時間 = $\frac{40}{45}$ コマ 特例により → 1単位時間(40分) = 1コマ

学校教育法施行規則第51条別表第1では、1単位時間を45分とした授業時数を定めています。目黒区研究開発学校では、特例により1単位時間40分を1コマとして実施しています。このことから、各学年の授業のコマ数は右のようになっています。

目黒区研究開発学校の各学年の授業時数(1コマ=40分)

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
865* コマ	925* コマ	980 コマ		1,015 コマ	

*外国語活動15コマを含む
※これ以上に余剰の時数は計画せずに研究をしています

「40分授業」の特徴について

通常の学校
1単位時間：45分

45分×1,015コマ

目黒区研究開発学校
1単位時間：40分

40分×1,015コマ

生み出した時間
127コマ

5分×1,015コマ = 5,075分

1単位時間5分を集めて、「生み出した時間」としています。この生み出した時間は第4学年、第5学年、第6学年では1年間で5,075分、40分のコマ数で表すと127コマに相当します。1単位時間を45分から40分にしたことにより「生み出した時間」は以下の表のとおりです。学校独自の教育課程に位置付けて活用していくことで、各学校において児童の実態に応じたカリキュラム・マネジメントの実現が可能となります。

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
106コマ	114コマ	123コマ		127コマ	



キーワード



指導内容の精選・重点化を図り、生み出した時間を活用することにより、標準授業時数にプラスすることなく、**学校の特色ある教育活動と教員の放課後時間のゆとり**が実現します。

ギモン1



「生み出した時間」で何をしていますか？

「生み出した時間」の活用は各学校で異なるのですが、具体的にはどのようなことに生み出した時間を活用していますか？ 成果はありますか？

生み出した時間について

- 特色ある教育活動 ⇒ P.6、7
- 「先生たちの時間」としての活用 ⇒ P.8、9
- 成果 ⇒ P.10、11
- まとめ・コタエ ⇒ P.12

ギモン2



「40分授業」で大丈夫ですか？

5分間授業時間が少ないですが、児童の学力は維持できていますか？ 授業時間が少ないことで、教え込みの授業になっていませんか？ 児童が自分の考えをもって、話し合う時間はありますか？

- 学習面について ⇒ P.14
- 生活面について ⇒ P.16
- まとめ・コタエ ⇒ P.17

ギモン3



なぜ「午前5時間制」なのですか？

目黒区ではなぜ「午前4時間制」ではなく、「午前5時間制」を導入しているのですか？ 「40分授業午前5時間制」の学校の1日のスケジュールや週の時間割はどのようなものですか？

- 1日のスケジュール ⇒ P.18、19
- 週の時間割 ⇒ P.18
- まとめ・コタエ ⇒ P.19

C O L U M N | 1

目黒区における「40分授業午前5時間制」の歴史

目黒区では、平成14年度に中目黒小学校が学力の向上と教員の時間を確保するため、「40分授業午前5時間制」を導入しました。その後、「40分授業午前5時間制」の成果を実感した中目黒小学校に所属していた教員が校長に昇任したり、区内の未導入校に異動したりし、異動先の学校でも「40分授業午前5時間制」が導入されていきました。令和元年度からは文部科学省研究開発学校に指定され、令和5年度は17校で導入しています。

40分授業午前5時間制導入

平成14年度	中目黒小	平成30年度	中根小
平成21年度	駒場小	令和元年度	下目黒小・田道小
平成22年度	月光原小	令和2年度	油面小・不動小・宮前小・上目黒小・鷹番小・緑ヶ丘小
平成25年度	烏森小		
平成26年度	向原小		
平成28年度	原町小	令和5年度	菅刈小・五本木小

※本報告書に記載されている内容は、学校教育法施行規則第55条の規定に基づき、教育課程の改善のために文部科学大臣の指定を受けて実施した実証的研究です。したがって、この研究内容のすべてが直ちに一般の学校における教育課程の編成・実施に適用できる性格のものでないことに留意してお読みください。



「生み出した時間」で何をしていますか？

生み出した時間を活用した学校の特徴ある教育活動

目黒区研究開発学校（以下：研究開発学校）では標準授業時数にプラスすることなく、生み出した時間を活用して、児童の学びの質と生活の質の向上を図るため、各学校独自の特色ある教育活動に取り組んでいます。

学びの質の向上

児童が自分の興味・関心のある内容について調べたり、まとめたりする「探究的な活動」や、教科等学習の中で自分の学習状況に合わせて児童自身が計画を立て、発展的な学習や補充的な学習に取り組む「自学自習」の活動、「表現力」「体力」等の学校で重点をおいて育成したい力を身に付けるための取組を行う時間等、各学校では実態に応じて取り組んでいます。

探究的な活動

自学自習

体力向上

学びの基盤づくり



表現力向上

基礎基本

教科等の充実

異学年交流

地域交流

計画振り返り



特別活動の充実

特別支援学級との交流

生活の質の向上

毎週1回以上、異学年の児童や特別支援学級の児童と交流する時間を設定するなど多様な他者との関わりを充実させる時間を設定したり、地域のボランティア活動に参加したり、学校での学びを地域に発表したりするなど、地域や学校の実態に応じて特色ある教育活動に取り組んでいます。

研究開発学校の取組の一部を紹介します

「生み出した時間」を活用して各学校が様々な取組をしています

研究開発学校の実際の取組①

下目黒小学校

「プラス1タイム」「マイプラン」「しもめタイム」等を設定して、学びの充実を図っています！

下目黒小学校では、生み出した時間の一部を「プラス1タイム」として教科等の学びを広げたり深めたりするための体験的な活動や出前授業等を行う時間に活用しています。実際に見て、聞いて、体験することで様々な気づきを得て学習内容の理解が深まるとともに、次の学習につながる問いが生まれ、学習意欲の高まりも見られます。また、自学自習の力を育む「マイプラン」「しもめタイム」も設定しています。



月光原小学校

学習タイムで、自律的に学ぶ力を育てています！

月光原小学校では、週時程に学習タイムを位置付けています。「マイ・ラーニング」期間には、児童は学習用情報端末内のデジタルドリル（AI機能搭載）を活用し、自分の学習状況に適した問題に取り組んでいます。自動採点により、その場で正誤確認ができることで、教員も児童の学習状況を把握し、丁寧な指導につなげることができています。



上目黒小学校

「話まるゼミナール」「上目タイム」で表現力UP！

上目黒小学校では、表現力の育成に重点を置いた活動を行っています。週2回程度（1回10分）の「話まるゼミナール」の時間では、各学級で教材の音読・詩の群読等を行ったり、週1回の上目タイム（下学年40分、上学年60分）では、「自分の『?』を見つけよう」「オリジナルCMを作ろう」等、テーマを決めて表現力を育成する活動を実施しています。



田道小学校

「サービス・ラーニング」を通して、学習力や社会力を養っています！

田道小学校では、カリキュラム・マネジメントを通じた学校改善を進めています。生み出した時間は、「みんなの時間」「自学の時間」の設定の他、午後の1単位時間を60分にするなど柔軟に活用しています。その中で、サービス・ラーニング（地域貢献）の学習による体験活動を取り入れています。教科等学習と地域貢献の相互作用が図られ、学習力と社会力の育成につながっています。





「生み出した時間」で何をしていますか？

「先生たちの時間」としての活用

生み出した時間を学校独自の教育活動にあてるだけでなく、「先生たちの時間」としても活用しています。

学年会の時間として活用

放課後のゆとり時間を活用して、学年会の時間を設定しています。勤務時間内に、学習指導や生活指導等について、報告・連絡・相談することができます。また、若手教員の悩み相談にのったり、より良い指導方法の共有をしたりすることができ、大切な時間になっています。



OJTの時間として活用

放課後のゆとり時間を活用して、主任教諭や教科の専門性の高い教員によるOJT研修を実施しています。学校によっては、講義形式のOJTではなく、学年を超えたチームを編成して、自分たちで課題を決めて取り組んでいます。



教員に裁量のある時間として活用

放課後のゆとり時間が多く設定することができるため、教員一人一人に裁量のある時間を充分保障しています。「先生マイタイム」等のような名称をつけて、会議や研修等を入れず、個々の教員が児童の作品を確認したり、教材研究に取り組んだりする時間を確保しています。



研究開発学校の実際の取組②

鷹番小学校

打合せの時間を確保し、学校全体で組織的な支援を行います！

鷹番小学校では、生み出した時間を活用して、児童理解のための「アセスメントタイム」を設定しています。毎週火曜日の放課後の時間に、対象学年を決めて、支援を必要とする児童の実態把握や支援方法を共有しています。学級担任だけではなく、管理職や生活指導主任、特別支援教育コーディネーター、養護教諭、スクールカウンセラー、特別支援教室担任などが参加し、それぞれの立場から児童を見取り、話し合いや記録を重ねることで、個に応じた指導や支援の在り方を明確にすることができています。



緑ヶ丘小学校

教員に裁量のある時間の更なる確保を推進します！

緑ヶ丘小学校では、会議内容の精選、ペーパーレス化、保護者連絡システムなどのICTを活用した業務改善にも積極的に取り組むことで、更に放課後の時間を創出し、教員が放課後に児童の個別指導や授業準備等をしたりができる時間を確保することができています。よい教育活動を展開していくために、教員の心身の健康の保持にも力を入れて取り組んでいます。



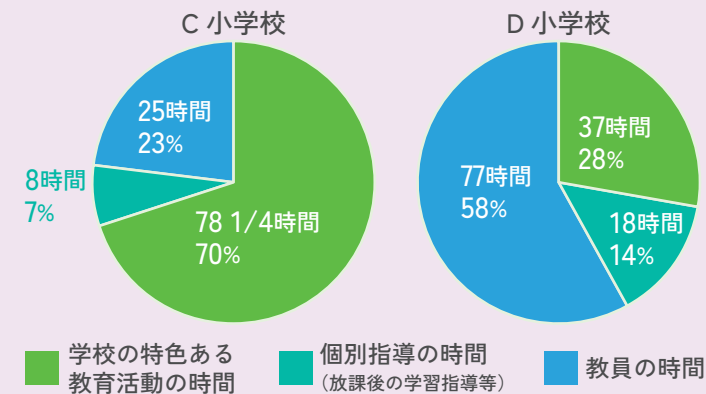
Pick up!

「生み出した時間」の活用の割合

生み出した時間の活用方法は、学校によって異なります。

C小学校のように、生み出した時間の多くを学校裁量の時間として設定することで、学校の特色ある教育活動の充実を図ることができます。

D小学校のように、生み出した時間の多くを教員の時間として設定することで、教員の授業力の向上につなげたり、心のゆとりの確保につなげたりすることができます。



「放課後の時間」はどのくらいありますか？

A 小学校では、高学年も月曜・水曜日が5時間授業という時間割で、児童の下校は14時前です。その他の日も15時には児童が下校します。

B 小学校では、年度当初の2週間や成績処理期間に午前授業にするなどしています。





「生み出した時間」で何をしていますか？

「生み出した時間」の取組の成果

「生み出した時間」の取組は各学校で異なります。そのため、取組の成果も特色ある教育活動によって異なります。各学校の特色ある取組とその成果を分析し、児童に関わる成果と教員に関わる成果に分けて整理しました。

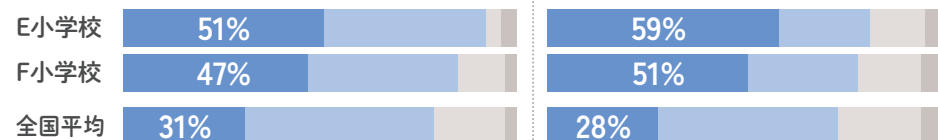
✂️「生み出した時間」の成果

児童 「令和5年度全国学力・学習状況調査の意識調査」より

探究的な活動に重点を置いて取り組んできた学校

5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか？

5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか？



あてはまる ややあてはまる あまりあてはまらない あてはまらない

E小学校・F小学校では、生み出した時間で児童が自分の興味・関心に基づき、自分でテーマを設定し、自分で計画を立てて、学びを進める探究的な活動に取り組んできました。そのため授業において、課題解決的に取り組むことや各教科等で学んだことを生かしながら考えをまとめる活動について問う意識調査では、「あてはまる」という回答が全国平均を大きく上回っています。

関わりを深める活動に重点を置いて取り組んできた学校

人が困っているときは、進んで助けていますか？

人の役に立つ人間になりたいと思いますか？

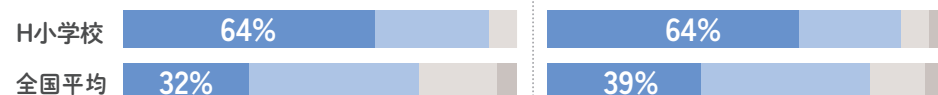


G小学校では、生み出した時間を使って、異学年等の多様な他者と関わりを深める活動に取り組んできました。関わりを深める活動が充実したことにより、他者意識が高まり左の調査結果が全国平均を上回っています。

体験活動に重点を置いて取り組んできた学校

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか？

授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか？



H小学校では、生み出した時間を使って、教科学習の学びを深める体験活動に重点を置き、総合的な学習の時間の充実も図っています。このことにより、学習内容をほかの学習につなげるなどの左の調査結果が全国平均を大きく上回っています。

実際の取組③ 研究開発学校の

駒場小学校

「こま研」で課題を見付け自ら進んで研究しようとする児童を育成しています！

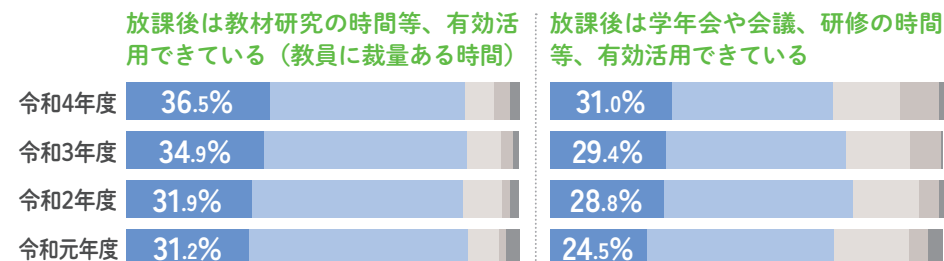
「こま研」は「こまば個人研究」の略称で、「課題を見付け自ら進んで探究しようとする児童」「学びに向かう力や姿勢」を育成するために、児童一人一人が個人で自分が好きなことを学び深めることができる時間です。教科等で学んだ見方・考え方を生かし、一人一人が自ら目標やテーマを設定し、自分が興味をもったことやもっと詳しく知りたいことや調べたいことややってみようことを自分のペースで学習します。



教員

「令和4年度研究開発学校教員対象調査」より

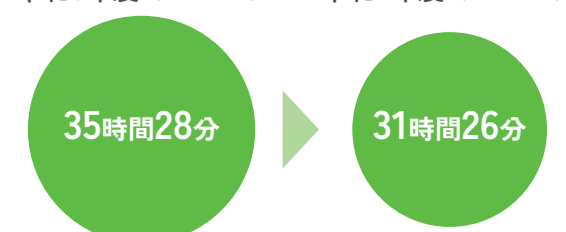
あてはまる ややあてはまる あまりあてはまらない あてはまらない 分からない



40分授業午前5時間制で生み出した時間は、会議、研修、学年会の時間や、教材研究・校務分掌等の一人一人の教員に裁量ある時間としても活用しています。また、通知表作成期間や個人面談期間は、午後の授業をカットするなどの工夫を行っており、このような工夫により、教員は時間と心にゆとりが生まれ、児童にしっかり向き合うことができている。

■月当たりの平均時間外在校等時間 「令和4年度出退勤調査」より

令和3年度（4月～3月） 令和4年度（4月～3月）



生み出した時間の多くを教員のための時間として設定しているI小学校では、教員の月当たりの平均時間外在校等時間を4時間程度短縮することができました。

40分授業午前5時間制の実施により、児童の下校時刻が早くなり、勤務時間内に教員の時間を確保できることに加え、職員会議の精選（年間5回）や、教科担任制の実施等が、働き方改革の推進につながっています。



I小学校教務主任

C O L U M N 3

目黒区の教員公募*に応募し、目黒区で勤務している教員の声

*教員公募…教員の定期異動にあたり、自分のもつ能力や適正を生かすため、自ら選択した区市町村や学校へ応募し、異動できる制度

- 午後の時間を有効に使って授業力・指導力の伸長に費やすことができると体感しています。
- 目黒区は、40分授業午前5時間制に挑戦し、教員の働き方改革にも熱心に取り組んでいると思います。区内での異動がとて多いことも、働きやすさを象徴していると思います。
- 働き方改革が進んでいると思います。40分授業午前5時間制により、授業時数に余裕があり、午後を会議のためにカットすることができ、放課後のゆとり時間が他区よりあると感じました。



中根小学校

放課後の時間のゆとりを確保することで教員の心のゆとりに！

中根小学校では、生み出した時間を活用し、児童個々の視覚機能（眼球運動機能）の向上を図り、学習の素地を高めることを目的とした「自分アップタイム」を設定しています。また、生み出した時間は、教員の時間としても多く活用しており、週時程を見直したり、会議を精選したりすることで、教員の放課後の時間にゆとりを確保しています。その放課後の時間に、児童と教員が相談・対話をする時間を設定したり、校内OJTや教材の準備に取り組んだりするなど、教員の心のゆとりにつなげています。






「生み出した時間」で何をしていますか？


「生み出した時間」のまとめ

私の学校では、自分が調べたい、取り組みたいテーマを決めて、自分なりに追究する取組をしています。はじめは自分でテーマを決めることに、とまどいましたが、今では自分の好きな歴史上の人物について、インターネットを使ったり、家から持ってきた本で調べたりして、まとめています。スライドで歴史上の人物クイズを作って、クラスの友達に出しました。私はこの時間が大好きです。




児童の声

教員の働き方改革推進が求められる中で、時代や学校の児童、地域の実態にあった新しい取組を展開することは難しさを感じる場所があるので、「限られた時間」の中で時間を生み出し、特色ある取組を実践できることはすばらしいと思います。




校長先生の声

主任教諭の先生方が中心になって、若手教員向けの研修会を放課後に実施しています。放課後に時間があることで、教員として必要なことを学びながらも、丸付けや授業の準備などの自分の時間も勤務時間内にもてることとがとてありがたいです。



先生たちの声

私の学校では「先生タイム」という時間が週に1回あり、その日は午後には会議や研修などが全くありません。学年の教員と一緒に1週間を振り返りながら、次の週の予定を考えたり、教材研究をしたりとゆとりをもって放課後の時間を過ごしています。



まとめ 「生み出した時間」で何をしていますか？

通常の学校
1単位時間：45分
45分×1,015コマ

研究開発学校
1単位時間：40分
40分×1,015コマ

授業時数とすることができる

生み出した時間：127コマ

学校の特色ある教育活動の時間
先生たちの時間

学校の実態に応じて調整

学校の特色ある教育活動の時間

- 探究的な活動の充実
- 発展的な活動の充実
- 基礎・基本の定着
- 体験活動の充実
- 特別活動の充実
- 関わりの充実

各学校の実態に応じた取組に通じて、学力だけではなく、各学校のねらいとしている力を児童に育むことができる。

先生たちの時間

- OJT の充実
- 学年会の充実
- 教員一人一人に裁量ある時間の確保

OJT、学年会の充実により、教職員は授業の質の向上に努めている。また、放課後の有効の時間を有効活用している。

コタエ1

「生み出した時間」で、授業時数を増やすことなく、学校独自の特色ある教育活動が実現されている！ 限られた時間の中で、学校独自の「カリキュラム開発」が可能に！

研究開発学校の実際の取組④

宮前小学校

「たんQ」で問題解決力アップ！

宮前小学校では生み出した時間で「たんQ」を行っています。主に生活科や理科の学習において児童の振り返りで新たに生まれた問題を追究します。学んだこと（知識・技能）を活用して追究するので、学んだことの定着や学習内容の理解を深めることにもつながります。また、学年を超えて異学年で協働して追究する活動にも取り組んでいます。第4学年の問題で出された「水以外の液体を温度を変えた時の体積はどうなるか」を第6学年の児童と一緒に問題解決をしていく活動等を実施しています。第6学年の終わりには、「一人て1問題解決」できることを目指しています。



原町小学校

休み時間たっぷり、体力アップ！満足度アップ！

原町小学校では、弾力的な時間割の編成により、月、水、金曜日は5時間授業、火、木曜日は7時間授業の設定になっています。その中で、5時間授業の日にも給食後に休み時間を設定し、校庭と体育館で体を動かすことができるようにしています。十分な時間と場所を確保することで、児童が自ら進んで運動に親しむ資質・能力を身に付け、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現することを目指しています。また、教員も積極的に、児童と一緒に体を動かしています。



不動小学校

「不動タイム」で対話力を高めています！

不動小学校では、生み出した時間を「不動タイム」（年間46回）と「読書タイム」（年間19回）に活用しています。「不動タイム」のうち、年間20回は「対話の学習」を実施しており、対話の基礎が身に付くよう、年間指導計画を作成し、発達の段階に応じて全校体制で指導しています。成果として、児童は指導した「話型」をもとに自分の考えを話すことができるようになったり、自分の考えを深めることができるようになったりと、言語力が高まっています。



油面小学校

多様な他者と関わりを深める時間を充実させています

油面小学校では、生み出した時間を「関わりを深める時間」として創意工夫ある活動を設定しています。「関わりを深める時間」では、「さくらタイム」、「なの花タイム」、「のびのびタイム」「アブラカタブラ教室」の4つの取組を行っています。「アブラカタブラ教室」では、教師一人一人が自分の得意なこと等を生かして教室（講座）を開設し、児童は自分の取り組みたいことを選択し、同じ教室に集まった児童と自然に関わりながら活動に取り組みます。異学年、男女、障がいの有無に関わらず、仲間と交流しながら関わりを深める時間を充実させています。



「40分授業」で学習面は大丈夫なの？

授業時間が45分と比べて5分間短くなることによる、学力の保障について複数の教育データを基に検証しながら進めてきました。また、教師の授業改善の視点である「主体的・対話的で深い学び」が実現が図られているかについても検証を行いました。

✂️ 学力は保障できていますか？

1単位時間を40分（40分×1,015コマ）としても学力を保障できているかについては、学習状況等の複数の教育データを基に検証する必要がありますが、このページでは、数値で把握できる学力について示しています。状況を把握するための指標と調査結果（全国学力・学習状況調査 教科に関する調査）は以下のとおりです。

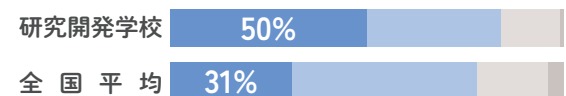
【指標】全国平均値と同等程度を維持

	令和5年度		【参考】令和元年度	
	国語	算数	国語	算数
研究開発学校 (15校)	74.3 ※全国平均より 7.1pt 高い	72.5 ※全国平均より 10pt 高い	71.2 ※全国平均より 7.4pt 高い	72.8 ※全国平均より 6.2pt 高い
全国平均	67.2	62.5	63.8	66.6
都平均	69	67	65	70

全国学力・学習状況調査の正答率を全国や東京都と比較すると、国語科、算数科において全国平均、東京都平均よりも高い平均正答率になっています。また、40分が1単位時間になる前の研究開発学校の平均正答率（令和元年度調査）は参考の通りです。全国と研究開発学校との差は、令和5年度と大きく変わりませんでした。

学びへの意識 意識調査

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか？



自分の学習状況について振り返り、次の学習につなげる自己調整を問う質問に対して、研究開発学校の児童が全国よりも肯定的評価が6pt 高く、あてはまると回答した児童は19pt 高くなっています。

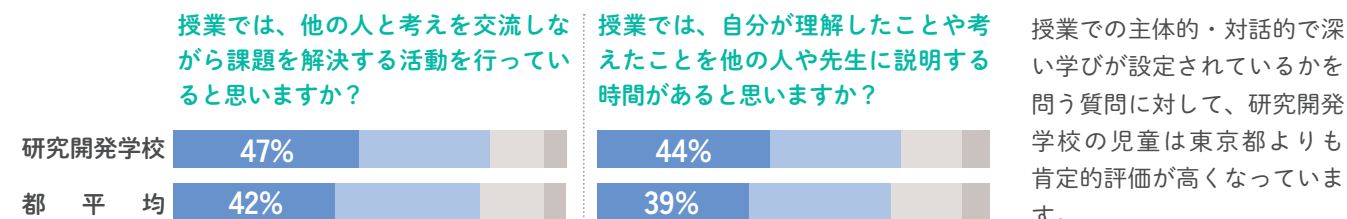
学力だけでなく、児童の学びへの主体性、振り返りから次の学習への見直し等の自己調整など、全国よりも学びへの意識が高いことがわかります。

✂️ 40分授業でも学力や学びへの意識が保障されていることがわかります



✂️ 主体的・対話的で深い学びはできるの？

令和5年度 東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査（意識調査）対象：第4～6学年児童



✂️ 40分授業でも対話的な時間が確保されていることがわかります

研究開発学校の実際の取組⑤

中目黒小学校

見通しや目標をもって自律的に行動できる力を高めています！

中目黒小学校では、生み出した時間を児童がタイムマネジメントする力や学習・生活の目標を明確にした学校生活を送ることができるようにするために、「マイプランとリフレクション」を実施しています。マイプランは、平成31年度から実施している取組です。1週間の学習予定をまとめたプリントを前の週の金曜日に配付して、月曜日の朝の会で1週間の予定を児童と確認します。児童が週の目標、当番の予定や準備物等考え、マイプランに書き込みます。また、マイプランで計画した内容を振り返りリフレクションでは、自己のことをメタ認知して振り返ることができます。教師は、児童がマイプランに記載した目標や頑張りたいことなどを確認することで、児童理解や支援を行うことができ、安定した学校生活につながっています。



烏森小学校

学びの質の向上につなげる ICT 活用で40分授業を実現！

40分授業での単元・授業づくり、学習指導案の形式、単元デザインのポイントを明確化し、ICT 機器を使つての授業の効率化と質の向上を図っています。低学年では、「写真や動画を撮影する」「記録に残す」など、ICT を児童が活用するための基礎段階の活動となることを中心としています。中学年では、「文字入力習熟」「調べ学習」「協働作業」など、児童がICT を円滑に活用することができるような活動を中心としています。高学年では、「各種アプリの活用」「作品作り」「プレゼンテーション」などを児童が日常的に活用できるよう授業をデザインしています。ICT 活用により、情報収集、情報共有、資料提示など従来の方法よりも効率的に学習を進めることができ、40分授業にはICT の活用が欠かせません。教員が効果的にICT を活用できるよう、生み出した時間を活用してICT 支援員等と連携しながら、研修会を実施しています。



向原小学校

「予習型40分授業」の開発で授業改善し、学びの質の向上を図っています！

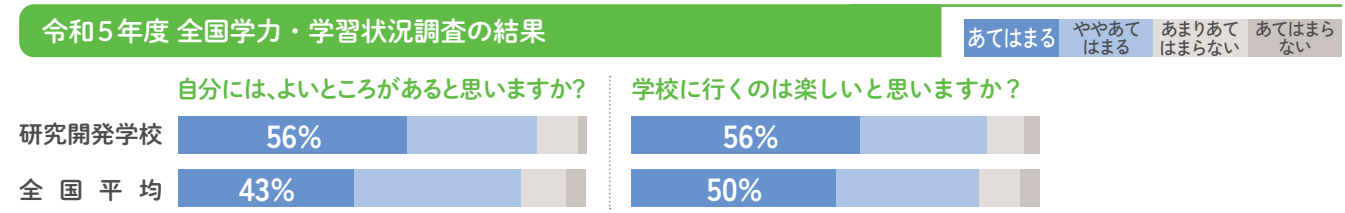
予習型40分授業は、授業に必要な知識を前もって確認し、見直しをもたせておくことで「40分授業午前5時間制」の1単位時間の指導の充実を図ることをねらいとしています。予習する内容は次時で扱う問題の解決策を考えることや予想することなどで主に家庭学習において、児童一人一人のペースや時間に合わせて取り組みます。予習型40分授業は、全ての教科で毎時間行うのではなく、予習内容の活用によって授業が主体的・対話的で深い学びになり、児童も予習が役立つことを実感できる教科・単元・時間を対象に、児童の発達段階に合わせて段階的に実施しています。



「40分授業」で生活面は大丈夫なの？

✂ 学校生活全般ではどうですか？

生活の質の向上とは学校教育活動全体を通じて、「自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度等をはぐくみ、子供たちのウェルビーイングの向上を図ること」であると捉えています。そこで、ウェルビーイングに係る観点から児童の意識調査の様子を分析しました。



「自分には、よいところがあると思うか」「学校に行くのは楽しいと思うか」について、研究開発学校の肯定的な回答、特に「あてはまる」と回答している児童の割合は全国平均よりも高いことから、「40分授業」は生み出した時間を活用して教育活動、学校の充実度や満足度、自己肯定感を得ることにもつなげていると捉えています。

✂ 児童や教員はどう捉えていますか？

はじめは、45分よりもあつという間に授業が終わってしまったり、午前中に5時間あることであたたく感じましたが、ゴールデンウィーク明けにはすっかり慣れました。

4月からの転入児童(6年生)

40分という時間の中で、児童の活動の時間を確保するために、様々な工夫をしています。また、学年で年間指導計画や単元指導計画を見直ししながら、授業づくりをしています。

40分授業午前5時間制実施校で3年間勤務している教員

中学校で50分になり、時間の長さを感じることはありましたが、すぐ慣れました。小学校時代の40分という時間は、当時の自分にとって、集中できるちょうどよい長さだったと思います。時間を守ることで密度の濃い40分を過ごすことができたと感じます。

40分授業午前5時間制実施校の卒業生

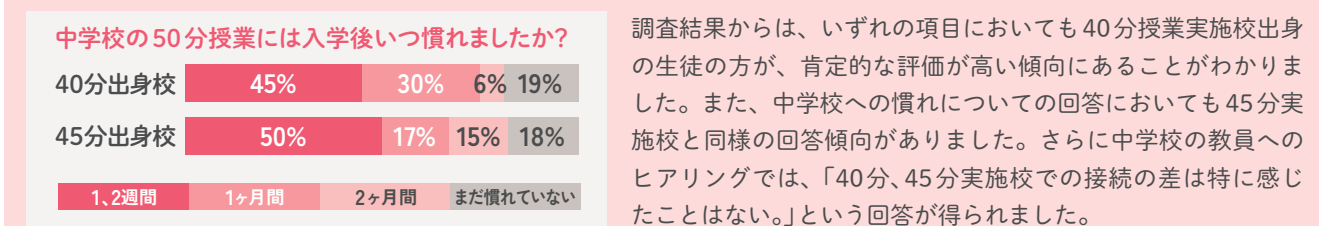
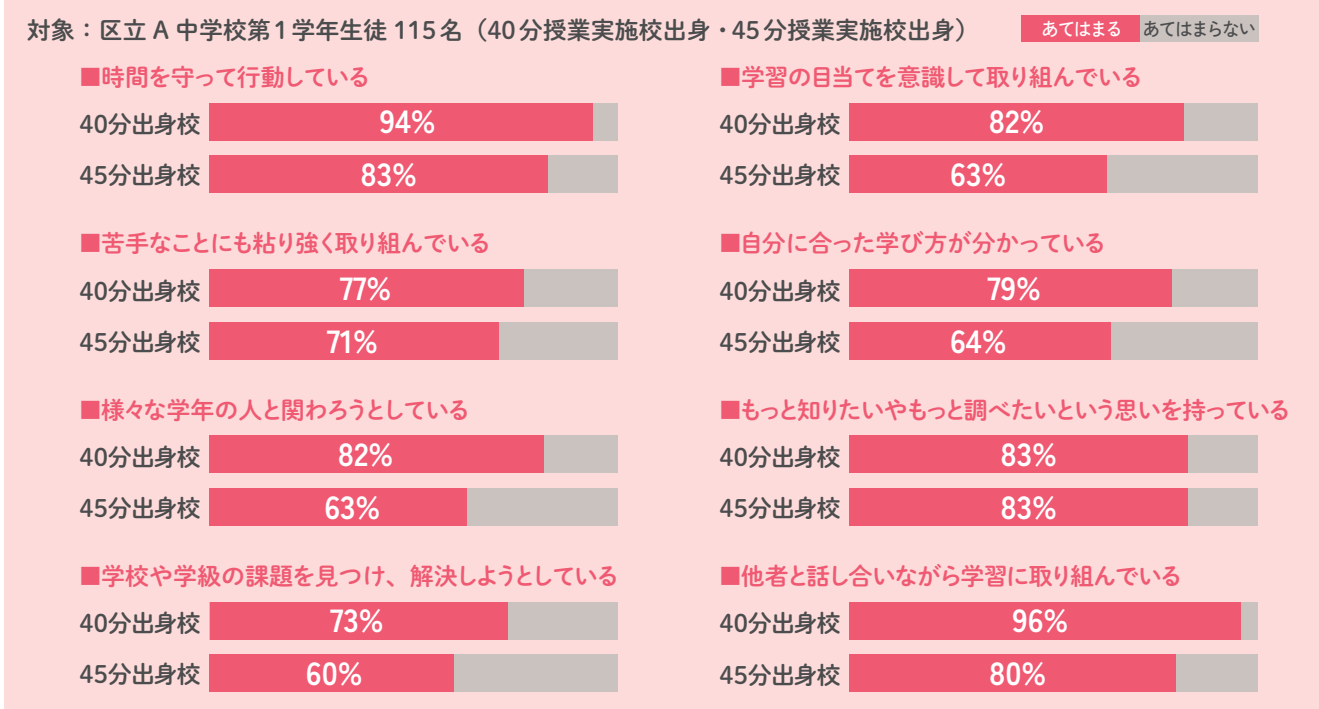
異動して数週間は40分で授業が終わりきらないことがありました。ただ、校内の先生方が40分授業のポイントを教えてくださいました。授業デザインに係る資料を参考にすることで、慣れてきました。授業づくりの視点が増えたと感じています。

45分授業実施校から異動してきた教員

C O L U M N 4

中学校の接続について

中学校意識調査の結果 40分授業実施校出身の生徒は中学校に入ると1単位時間が10分増加になります。円滑な接続ができているのかについてA中学校第1学年の生徒を対象に調査しました。



調査結果からは、いずれの項目においても40分授業実施校出身の生徒の方が、肯定的な評価が高い傾向にあることがわかりました。また、中学校への慣れについての回答においても45分実施校と同様の回答傾向がありました。さらに中学校の教員へのヒアリングでは、「40分、45分実施校での接続の差は特に感じたことはない。」という回答が得られました。

✂ 40分授業実施校と45分授業実施校で中学校への接続についての差はない

まとめ 40分授業で大丈夫ですか？

学力調査 (全国学力・学習状況調査)	どの教科も全国平均より高い。また40分1コマの時数カウントをしていなかった令和元年とも数値の変動はほとんどない
学びへの意識 (全国学力・学習状況調査)	どの項目においても、学びに向かう意識の肯定的評価が全国よりも高い
主体的・対話的で深い学びの授業づくり (都学力調査)	児童同士が自分の考えをもつ活動や他者と交流する活動の時間が十分に確保されている
学校生活全般の意識 (全国学力・学習状況調査)	学校の充実感や満足感、自己肯定感は全国よりも高い

コタエ2 「40分授業」でも各学校の授業改善と工夫により、児童の学力や学びへの意識は維持されている！



なぜ「午前5時間制」なのですか？

「午前5時間制」を選択して

目黒区では、40分授業「午前5時間制」を導入しています。実際の研究開発学校の一日の生活時程や週の時程がどのようになっている、なぜ「午前5時間制」を選択しているのかその理由をみていきましょう。

✂ 一日の生活時程例

研究開発学校の一日の生活時程を通常の45分授業午前4時間制の時程、40分授業午前4時間制の時程と比較して、その特徴を以下のようにまとめました。



教員の放課後の時間にゆとりがある！
⇒教材研究、授業の準備、児童の提出物の確認、OJT、研修等の時間を十分に設定することができます。

✂ 週の時程

研究開発学校の各学校の週時程は、学校の実態に応じて午後の設定の仕方が多種多様です。ここでは4つのパターンを紹介します。午後のみの時間を示しています。(1週間29コマ設定を例にしています)

パターン1
短時間学習(20分)を帯で設定

	月	火	水	木	金
短時間学習					
6時間目	26	27		28	29

短時間学習(20分)を設定し、「生み出した時間」として、学習用情報端末を活用して個別最適化学びの取組や表現力を高めるための取組をするなどの時間として活用している学校があります。

【特徴】
・〇〇タイムとして校内で共通の取組ができます。

パターン2
緩急つけた5時間目と7時間目設定

	月	火	水	木	金
6時間目		26		28	
7時間目		27		29	

火曜日、木曜日は午後2時間設定する代わりに、月曜日、水曜日、金曜日は午後の授業を設定していない学校があります。月曜日や水曜日には、児童会活動やクラブ活動、教員の研修や会議を設定している学校があります。

【特徴】
・午後に2コマ連続の設定ができます。
・月曜日が5時間授業で、児童も教師も週明けの負担が少ないです。
・月曜日、水曜日、金曜日は放課後にまとまった時間設定ができます。

パターン3
昼会・集会等を設定

	月	火	水	木	金
集会		集会		ロング	
6時間目	26	27		28	29

6時間目の前に児童集会やその前の昼休みと合わせたロング休み時間を設定している学校があります。

【特徴】
・朝に朝会・集会を設定するよりも十分時間を確保することができます。
・1時間目が落ちついてスタートできます。

いる理由について

留意事項

- ☆登校時刻が早いことや給食の開始時刻が遅いことから、家庭と連携し、「早寝・早起き・朝ごはん」を習慣化していくことが重要です。
- ☆下校時刻が早いことから、子どもたちの放課後の居場所づくりが必要です。

特徴 40分授業午前4時間制と比較して出張、会議等で午後を授業カットする場合、下校時刻が13:25に設定できる。下校時刻が早い

特徴 45分授業午前4時間制と比較して下校時刻が45分早い(☆)

まとめ なぜ「午前5時間制」なのですか？

- 児童の下校時刻が早く、放課後の時間をより多く設定することができる
- 午後に、各学校の実態に応じた弾力的な時間割を設定することができる



コタエ3 「40分授業」には「午前5時間制」がベストミックスである！

「40分授業午前5時間制」 のまとめ



ギモン1

「生み出した時間」で何をしていますか？

コタエ1

「生み出した時間」で、標準授業時数にプラスすることなく、学校独自の特色ある教育活動が実現されています。

- 「生み出した時間」の取組として、探究的な活動、発展的な活動、関わる力を高める取組等、学校独自の教育活動が行われています。
- 「生み出した時間」を教員の時間としても活用し、教員の教材研究、授業準備、研修等を充実させ、教員の授業力の向上や働き方改革につなげています。
- 「生み出した時間」の取組に充てる時数も学校により異なります。



ギモン2

「40分授業」で大丈夫ですか？

コタエ2

「40分授業」でも各学校の授業改善と工夫により、児童の学力や学びへの意識は維持されています。

- 「学力」（全国学力・学習状況調査）は全国平均を大きく上回った数値を維持しています。
- 「学びへの意識」の肯定的評価も全国平均を上回っています。
- 「主体的・対話的で、深い学び」は40分の授業デザインを意識することで実現できています。



ギモン3

なぜ「午前5時間制」なのですか？

コタエ3

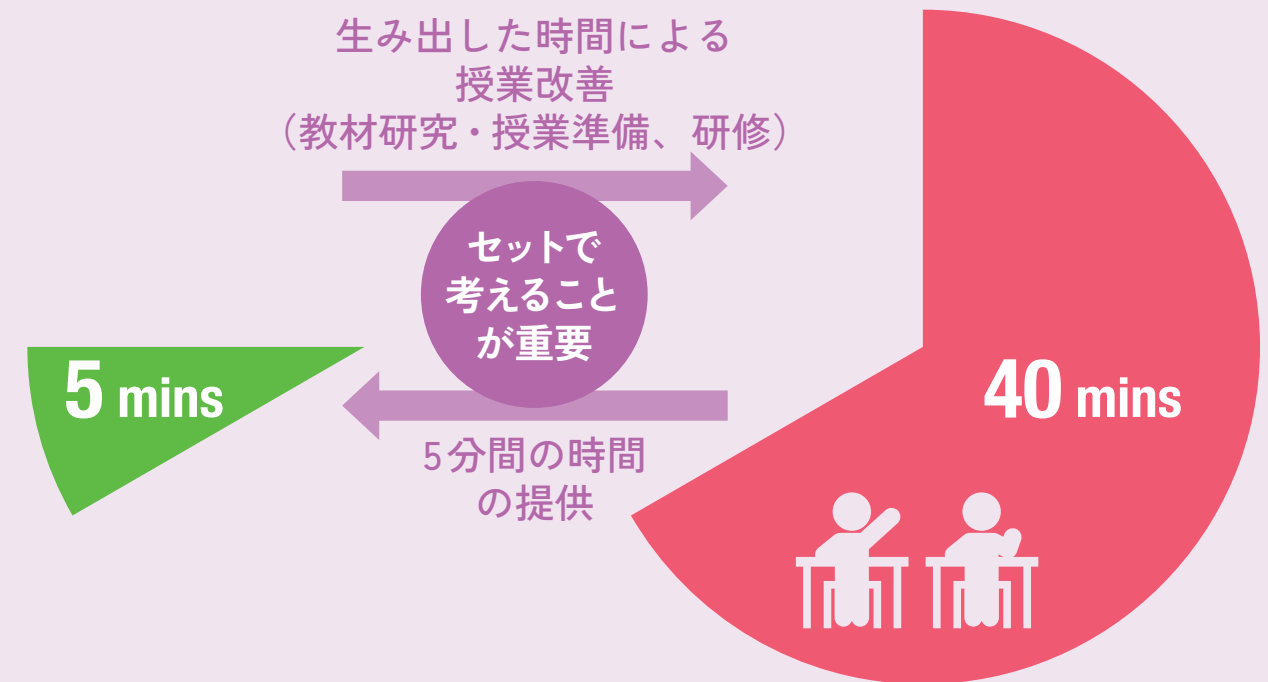
「40分授業」には「午前5時間制」がベストミックスです。

- 児童の下校時刻が早く、放課後の時間をより多く設定することができます。
- 午後に、各学校の実態に応じた弾力的な時間割を設定することができます。

40分授業について

生み出した時間

40分授業



「40分授業」というと「5分間少ないこと」が目される場合が多くあります。5分間少ないことで、1単位時間の中で授業を終えることができるのか、児童の学力は保障できるのか、主体的・対話的で深い学びは実現できるのか、児童に関わる時間が減ってしまうのではないかと、そんな疑問の声が聞かれます。しかし、この「5分間」は削減されるということではなく、「5分間」を積み上げて「生み出した時間」として、その時間を学校の特色ある教育活動である自ら学ぶ力や人と関わる力、表現力等の各学校が児童に身に付けさせたい力を育む時間に活用しています。また、「生み出した時間」を教員の時間としても活用することで、OJTや教材研究、授業準備の時間等を確保することができ、日々の授業改善につなげています。つまり、40分授業は常に5分間の生み出した時間とセットで考えることが重要です。



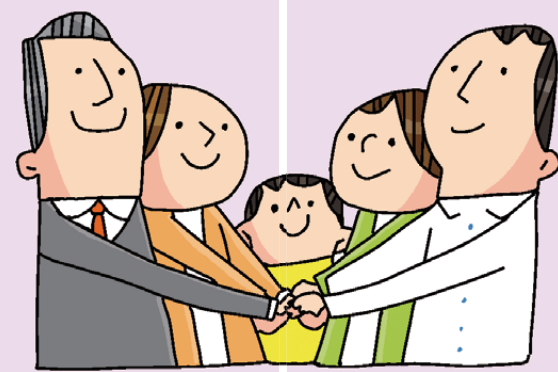
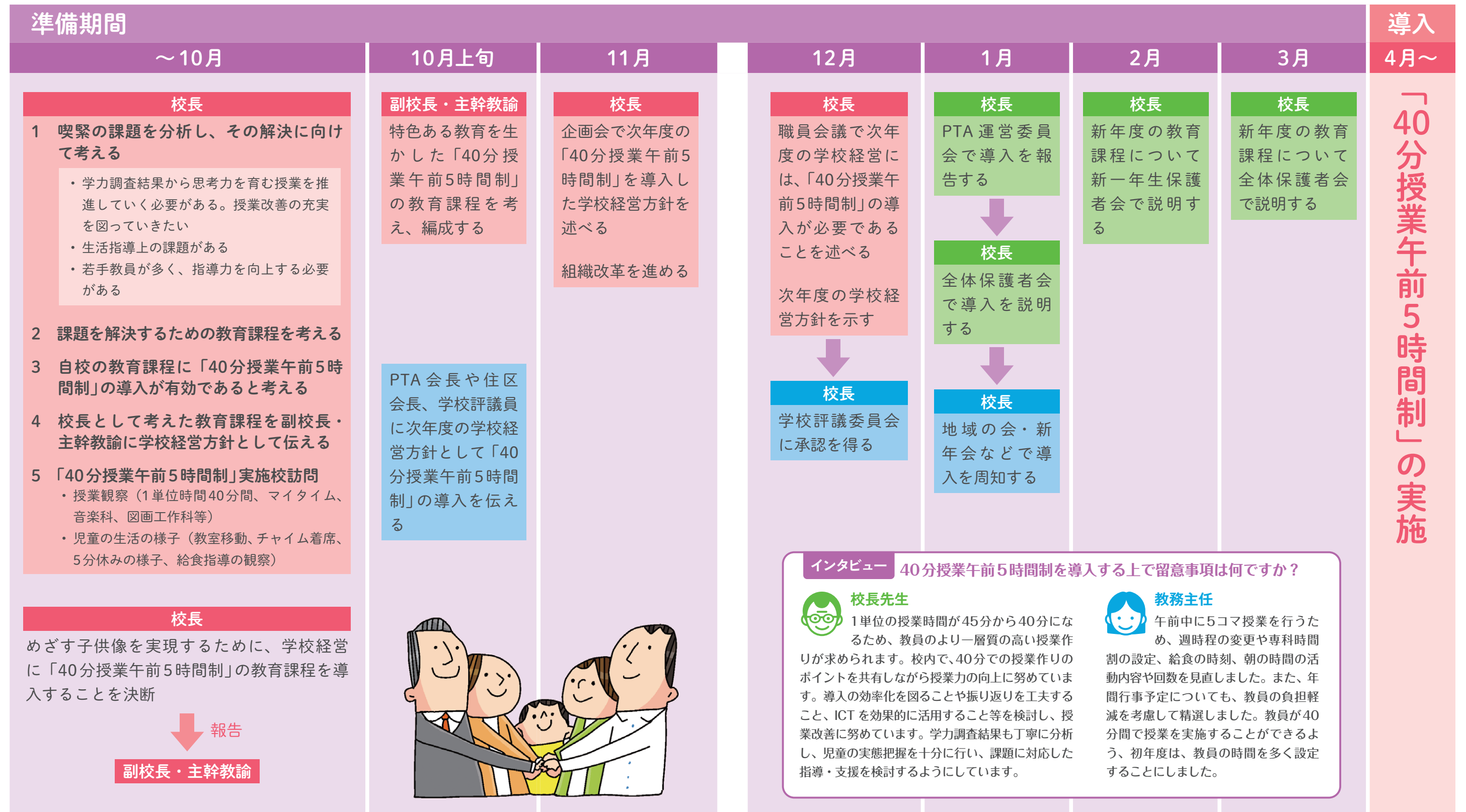
導入準備 (例)

「40分授業午前5時間制」を導入するにあたって

主な準備事項

- 40分授業づくりの工夫
- 教職員の勤務時間の変更
- 通学路の時間帯の変更
- 年間指導計画の作成
- 給食委託業者との確認
- 「40分授業午前5時間制」導入説明資料の作成

■ 学校内 ■ 保護者 ■ 地域等



40分授業のポイント

ここでは、40分授業のポイントをまとめました。各学校では、授業スタンダードを設定したり、「生み出した時間」を活用し、OJTを通して授業力の向上を図ったりしています。授業づくりにおけるポイントは多種多様ですが、今回は、「見直す」と「時間の確保」の二つの視点で整理をしました。この視点は、45分でも当然意識することが大切な視点ですが、特に研究開発学校では意識して授業づくりを行っています。

見直す

40分授業では、1単位時間45分から5分間削減するという考え方ではなく、年間指導計画や単元指導計画等の見直しが重要になります。その上で、1単位時間の学習内容や指導方法について、改めて見直していくことが大切です。

01 年間指導計画の見直し

見直しの視点

- ☑ 教科等を超えた学習内容のつながりに着目する
- ☑ 身に付いた力のつながりに着目する

重点化と精選により
単元配列や指導時間
を変える

教科等を超えた学習内容のつながりに着目する

例

社会科 [単元名] ごみの処理と再利用	算数科 重点化 折れ線グラフと表 データの活用	国語科 精選 聞き取りメモの工夫 必要なことを記録し、質問しながら聞く
精選 表を使ってまとめる		精選 新聞を作ろう 調べたことを効果的にまとめる

つながりに着目

教科等を超えたつながりを意識し、合科的に捉えることで、40分授業の中で学びの質を高めることが可能になります。

身に付いた力のつながりに着目する

例

理科 季節と生物の学習では、最初の単元「あたたかくなると」で問題づくりや観察計画の立案に十分に時間をかける（観察する力を高める）

身に付いた力に着目 → 「暑くなると」「すずしくなると」「寒くなると」の単元の内容を精選する

単元名	指導時間（標準）
4月 重点化 あたたかくなると	5時間（4時間）
7月 精選 暑くなると	3時間（4時間）
10月 精選 すずしくなると	3時間（4時間）
11月 精選 寒くなると	3時間（4時間）

単元の中で育成する力を明確にし、その力が別の単元でどのように生かされるかを踏まえ、重点化と精選を図ることが重要です。

02 単元指導計画の見直し

見直しの視点

- ☑ 育成すべき資質・能力と学習活動の関係性に着目する
- ☑ 単元で働かせる見方・考え方に着目する

指導時間、学習活動の内容・順番・重点を変える

「知識・技能」に着目する

例

算数科 単元名：拡大図と縮図

時	45分の場合の単元指導計画	40分の場合の単元指導計画
1	拡大図と、縮図の意味・性質の理解	拡大図と、縮図の意味・性質の理解
2	拡大図、縮図の弁別	拡大図、縮図の弁別
3	合同な図形のかきかた（1辺を基）	合同な図形の拡大図、縮図
4	三角形や多角形の拡大図、縮図	多角形の拡大図、縮図（1点中心）
5	既習の基本図形を拡大図、縮図の分類	既習の基本図形を拡大図、縮図の分類
6	縮尺の意味と表し方	縮尺の意味と表し方
7	縮図の活動	縮図の活動
8	学習問題に対するまとめ	学習問題に対するまとめ

統合
分割

拡大図・縮図について、丁寧に手順を確認し、確実にかくことができるようにするため（知識・技能を確実に定着）、内容を統合したり、分割したりする。

「思考・判断・表現」に着目

例

理科 単元名：ふりこのきまり

時	45分の場合の単元指導計画	40分の場合の単元指導計画
1	ふりこの振れ方について問題を見出す	ふりこの振れ方について問題を見出す
2	調べる方法を考える	調べる方法を考える
3	①ふりこの長さを変えて調べる	①ふりこの長さを変えて調べる
4	②おもりの重さを変えて調べる	②おもりの重さを変えて調べる
5	③ふれはばを変えて調べる	③ふれはばを変えて調べて、まとめる
6	実験結果を整理し、振り子のきまりをまとめる	
7	1秒で1往復する振り子をつくる振り子のきまりについて、学んだことをまとめる	1秒で1往復する振り子をつくる振り子のきまりについて、学んだことをまとめる

増加
統合

条件制御をしながら仮説に基づき、検証方法を立案する力を育むことが重要であるため、「調べる方法を考える」の時間を増加させ、ふれはばを調べる実験と3つの結果をまとめる活動を統合します。

